

## 2022年度 江戸聖一郎 フルート(バロック音楽について)特別講義

1. 日 時 : 2022年10月27日(木) 13:30~16:45
2. 場 所 : O202
3. 対象学生(必修) : フルート専攻・コース生 ※他聴講不可
4. 講師紹介 : 江戸聖一郎 氏

兵庫県伊丹市出身。京都市立芸術大学音楽学部卒業、同大学大学院音楽研究科博士(後期)課程修了。フランソワ・ドゥヴィエンヌに関する研究で博士号を取得。フランス国立オールネイ・スー・ボワ音楽学校において、世界的フルート奏者であるパトリック・ガロワ氏に師事し、同校を審査員満場一致の一等賞を得て卒業。フルートを赤穂由美子、待永望、大嶋義実、瀬尾和紀、パトリック・ガロワの各氏に、リコーダーを秋山滋氏に師事。タンスマン国際コンクールファイナリスト(ポーランド)、ピカルディー音楽コンクール(フランス)1等賞。ル・パルナス・フルートコンクール第1位、UFAM国際音楽コンクール1等賞など、数多くのコンクールで優秀な成績をおさめる。ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団フルート奏者を務め、オペラをはじめ、数多くの公演に参加する。メガネ男性フルート奏者4名によるパフォーマンス・グループ「アンサンブル・リュネット」の一員としても活動し、その自由で洒脱な芸風が注目を集めている。これまでに全国各地で公演を行うほか、海外のフルートフェスティバルからも招聘され、韓国の大邱・ソウル、中国の北京ではその高いアンサンブルの精度と音楽性、インパクトの強いパフォーマンスが現地の聴衆に熱狂的に受け入れられた。第16回日本フルートコンヴェンションコンクール・アンサンブル・アワード部門において第1位を受賞。打楽器奏者の安永早絵子とともにフルートと打楽器のデュオ・ユニット「エプスリー」を結成し、オリジナル作品を中心とした独自の活動を展開している。2016年度伊丹市芸術家協会新人賞受賞。大阪音楽大学非常勤講師。パールフルートギャラリー大阪教室講師。アジア・フルート連盟理事。

### 5. 講義概要 :

クヴァンツの『フルート奏法試論』について  
-18世紀の音楽演奏のために知っておきたいこと-

3時限(13:30~15:00)

1. 『フルート奏法試論』にはどんな本?どんなことが書かれているの?

『フルート奏法試論』の概説。なぜこの著作がバロック演奏におけるバイブルのように扱われるのか、私たちはそこから何を学ぶことができるのか、についてお話しします。

2. 演奏におけるスタイル(様式)とはなんだろう?

受講生の中から1名、任意のバロックの作品を1曲演奏していただきます。その演奏を題材に、作品にふさわしいスタイルの理解と実践について考えます。

3. 第6章 タンギングとアーティキュレーションについて

18世紀の音楽を演奏する際に直面する大きな問題の一つである、アーティキュレーションについて書かれている第6章を解説します。

4. アーティキュレーションの実施

『フルート奏法試論』を読めばアーティキュレーションの実施ができるようになるのか?受講生の中から1名、J.S.バッハ《無伴奏フルートのためのパルティータ》第1楽章を演奏していただき、アーティキュレーションの実践について考えます。

4時限(15:15~16:45)

1. 第8章、第9章 定型的装飾について

18世紀の音楽演奏におけるもう一つの大きな問題、装飾の扱いについて考えます。まずは、定型的(本質的)装飾について、トリルや装飾音符をどう演奏するのか、第8章、第9章を読んでみましょう。数人の受講生の方に演奏してもらいながら解説します(事前の指名、曲目の指定などは不要です)。

2. 第13章、第14章 自由な装飾について

もう一つの装飾、任意の(自由な)装飾、すなわち即興的な装飾の実践について、第13章、第14章を読んでみましょう。受講生の方1名に第14章の【表17~19】またはテレマンのメーディッシュェ・ゾナーテンから任意の1曲の1楽章を演奏していただき、クヴァンツやテレマンがどのように自由な装飾を実施していたのかを見てみましょう。